

平成29年度道徳教育実践研究（研究指定校）事業における取組について

美馬市立江原中学校

1 研究主題

互いに認め合い、高め合う生徒の育成
～豊かな体験活動や、人・社会との関わりを通して～

2 これまでの研究の概要

(1) 道徳の教科化に向けた「量的確保」のための取組

①年間計画の見直し

キャリア教育，人権教育，総合的な学習の時間，学校行事等との関連を踏まえ，学年ごとの年間計画を作成した。その計画を踏まえ，道徳教育全体計画の見直しを行った。

②各学年の道徳教育推進担当を中心とした推進委員会

学校全体の取組について共通理解を図るとともに，各学年の取組状況等について協議した。また，研究授業や公開授業を複数回実施し，互いに学び合う機会を確保した。

③学びの蓄積の見える化

各学級の係活動として道徳係をおいた。また，授業時に「道徳⑬」のように本時が何時間目になるかを板書するとともに，道徳の授業で学習した内容項目や主な生徒の意見等をまとめて教室背面や廊下等に掲示することによって，これまでの学びの蓄積の見える化を図った。他学年の学びも共有でき，大変有効だった。



1 年廊下の掲示



2 年教室内掲示



3 年教室内掲示

(2) 体験活動や学校行事等の充実

①学校行事等の更なる充実

各種体験活動や学校行事等のねらいを生徒に明確に示し，全員が共有することにより，成就感や達成感を感じることができた。また，生徒同士の協働を通して互いに認め合い，自己有用感や自己効力感を高めることができた。各学校行事等の写真を1階廊下に掲示し，様々な場面での活躍の様子を振り返ることができるようにした。



体 育 祭



合唱コンクール



1 階廊下の掲示

②校区内の障がい者支援施設との交流活動を通じた学び

2年生が校区内にある「障害者支援施設かしがおか」の利用者と交流を重ね，障がいのある人への理解を深めるとともに，障がいの有る無しにかかわらず，全ての人が共生できる社会について考えることができた。初めは戸惑いがちだった生徒も文化祭の合同発表に向けて練習を重ね次第に打ち解け，心を合わせた素晴らしい発表を披露した。その後の作業場での研修では自分から話しかけたり笑顔で接したりする姿があちこちで見られた。



互いに自己紹介



文化祭での合同発表



作業所での合同作業

③地域の方や様々な分野の講師からの学び

人権に関する講演，携帯・スマホ教室やマナー講習などを開催し，様々な講師から相手の立場や心情に配慮したコミュニケーションの大切さについて学んだ。担任や学級の仲間と道徳の授業等で考え話し合っていることについて更に深めることができた。また，地域のボランティアの方による読み聞かせ（月1回）や狂言の観劇等を通して，絵本のイメージを思い描いたり伝統文化に触れたりして，伝えられる言葉をしっかりと受け止めていた。



人権講演



能舞台での狂言



読み聞かせ

④校外での各種体験活動の実施

毎年ゴミゼロの日に学校周辺の清掃活動を行っている。地域の方が声をかけてくれることも多く，生徒も励みに感じている。職場体験学習では各事業所・店舗の方から様々なことを教えていただき，自分たちが地元の子供として大切にされていることを実感する貴重な機会となっている。また，保育実習では，年長者として幼い子供たちに気遣いながら一緒に過ごし，自分たちもこのように多くの人に愛されている存在であることを実感した。

(3) 道徳の教科化に向けた「質的向上」のための取組

①校内研修・研究授業の実施

道徳の教科化に向けた動向について校内研修を行うとともに，各学年における研究授業・研究協議を複数回実施し，教員の授業力向上を図った。



1年A組研究授業



2年B組研究授業



3年A組研究授業

②キャリア教育における「マイ 夢&キャリアシート」の活用

将来の自分や卒業時の自分を具体的にイメージしそれに向けて今何をするべきなのか，学期始めに目標を設定し，学期終わりに振り返りの機会をもつことで，生徒の自主的・自律的な取組への意識付けを図った。

3 今後の取組について

- 12月10日（日）参観授業後に人権意見発表会を実施する予定である。各学級で事前に全員が発表を行い学級代表を決定している。その後，劇「千の舞」の上演を予定している。
- 12月上旬にアンケートを実施し，7月に実施したアンケート結果と併せて考察・分析し，今後の指導に活かしていきたい。